

ANNUAL REPORT 2020



石巻市子どもセンターができた経緯



震災直後2011年5月から6月にかけて、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下「SCJ」という)は、宮城県、岩手県の子どもたち約1万人にアンケートを実施し、90%近い子どもたちが「まちのために何かしたい」と思っていることを明らかにしました。その声を受けてSCJが子どもたちに呼びかけ、岩手県山田町・陸前高田市・宮城県石巻市3つの地域で子どもまちづくりクラブが発足しました。石巻市では、2011年7月に石巻市子どもまちづくりクラブが発足。同年夏には、復興に向けたまちづくりをめざし、“夢のまちプラン”を作成し、そのプランを市に提案しました。“夢のまちプラン”の中の色々な想いを1つにし、実現化したのが「石巻市子どもセンター」(以下、子どもセンター)です。地域と連携しながら子どもたちが企画・デザインを行い、2013年12月に完成し、SCJから石巻市に寄贈されました。寄贈後は、石巻市の児童館として運営されています。

子どもまちづくりクラブが考えた子どもセンターのコンセプト

石巻の活性化のために中高生が中心となってつくり、運営していく施設
みんなが過ごしやすく、子どもの想いを世間の人たちに伝えられる場所

子どもセンター 条例前文

子どもは一人の人間であり、子ども一人ひとりが生まれながらに権利を持っています。子どもが幸せに健やかに成長するためには、多くのことが必要であり、子どもたちは次のように語ります。

私たちを中心に、話し合ったり、ふれあったり、交流できる場が必要です。

それにより、大人も含めた幅広い年代の人とのつながりを大切に、絆を深めることができます。

みんなが楽しめて、ゆったりできる場が必要です。それにより、私たちは安心して心と体を休めることができ、笑顔が増えます。

私たちが運動できる場が必要です。それにより、体を動かして楽しく遊ぶことができ、心身ともに、健康に成長することができます。

私たちが学べる場が必要です。それにより、お互いに教え合い、考えることを好きになり、理解することの楽しさを知ることができます。

私たちが自由に社会に意見を発信できる場が必要です。それにより、自主的に活動できるようになります。

さらに、まちの未来について考えることが地域の活性化につながり、さらに多くの人に私たちのまちのことを知ってもらうことができます。

だから、私たち子どもが中心となって活動する子どものための施設をつくっていききたいです。

石巻市は、この子どもたちの想いを形にするための施設となる石巻市子どもセンターを設置することにより、生まれながらに持っている子どもの権利が尊重され、子ども一人ひとりが幸せで健やかに成長できる社会につながることを期待し、ここに「石巻市子どもセンター条例」を制定します。

らいつで子どもたちの声が 実現する生態系図



子どもセンター事業体系図

子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。

子どもの権利には「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」4つの権利があります。

この4つの権利に基づき、子どもが遊ぶことを通して育つこと、子どもの声が子どもセンターの事業や運営に活かされること、地域や社会で子どもが力を発揮できる機会をつくることを大切にしています。

子どもセンターの運営

子どもセンター運営会議

子どもセンターの事業

子ども参加事業

子どもまちづくりクラブ
子ども会議
子ども企画
Big Voice
まきトーーーク
子ども実行委員企画イベント
L 石巻ハロウィン祭り・夏祭り
らいつの日006

子どもエンパワー事業

アートラボ
料理王
Earth Teens
青春力 -Youth Power-

子育て支援事業

親子ではび☆はび
親子でほかほか
音楽であそぼう！
ベビーマッサージ
パパ講座
Mカフェ
休日子育て相談

企業・地域との
連携事業

移動児童館事業
釜、蛇田、中瀬

研修事業
子ども子育て支援者講座

子どもの権利啓発
子どもの権利月間

子どもセンター
運営会議



子どもセンターの運営について話し合い、最終決定する場です。子どもの声を反映して運営されるように、大人委員5名(地域で子どもを見守り、子どもに関係する活動をしている方)、子ども委員(子どもまじづくりクラブから2名、子ども会議から3名)で話し合います。毎回、議題の他に子どもの権利ワークショップも行い、学んでいます。今年は、中止や延期をしつつ、オンライン参加も取り入れて実施しました。

3月8日 コロナ感染予防で休館のため中止

7月5日 休館中の動きと休校アンケートについての報告／まきトーークの報告／子どもまちづくりクラブ、子ども会議の活動報告/Wi-Fi会議からの報告

10月11日 Big Voice報告/子どもまちづくりクラブ、子ども会議の活動報告/来年度の事業内容検討

Wi-Fi設置

利用者から「らいつにWi-Fiをつけてほしい！」という声が多くあり、Wi-Fiがあることでらいつがどう変わるのかや、リットデメリットを話し合う「Wi-Fi会議」を開催。約2年かけて何度も会議を重ね、これなら安全に利用できる！というルールを子どもたちで決め、運営会議で報告・決議され、らいつにWi-Fiをつけることになりました。それにより、2020年10月から、らいつでWi-Fiが利用できるようになりました。

子どもセンターの愛称「らいつ」

全国から41名48もの作品が集まり、子ども会議及び愛称検討チームで8つの候補作を選びました。そして2014年4月20日に開催された子どもセンター運営会議で厳正な審査のもと、中学生が考えた“らいづ”が選ばれました。“らいづ”の由来は、英語でrights(権利) lights(ひかり)の2つの意味を持ち、子どもの権利の拠点として、未来の希望のひかりとして子どもセンターが存在するとう願いが込められています。



子ども参加事業

子どもの権利に基づき運営や事業に子どもの声を活かすとともに、子どもがアクションを起こし、子どもの声を社会に発信する、子どもセンターの核となる事業です。

1月	らいつの日006準備/実施	8月	フィールドワーク実施・振り返り
2月	防災チーム企画会議	9月	今後の活動テーマの検討
5月	オンラインミーティング	10月	今後の活動テーマの検討
6月	今後の活動について	11月	チーム活動(ハコブネ。チーム、魅力発信チーム)
7月	フィールドワーク事前準備	12月	チーム活動(ハコブネ。チーム、魅力発信チーム)、全体での活動について

子どもまちづくりクラブ

子どもまちづくりクラブは、子どもセンターの子ども参加事業として位置づけられ、子どもたちが地域の一員として、まちづくりに取り組んでいます。

Big Voice

事業に子どもたちの声を活かすために、利用者ならだれでも参加できるBig Voiceを子ども会議メンバーが毎年、企画実施しています。今年は、らいつにおいてほしいもの、困っていること、らいつでしたいことなどのアンケートをとったり、新型コロナウイルスのことをみんなに正しく知ってほしいと館内にクイズを掲示したりしました。「らいつでお泊りしたい」「もっとらいつを増やしてほしい」などの声が。Big Voiceで出された意見は、各事業や利用方法に反映していきます。

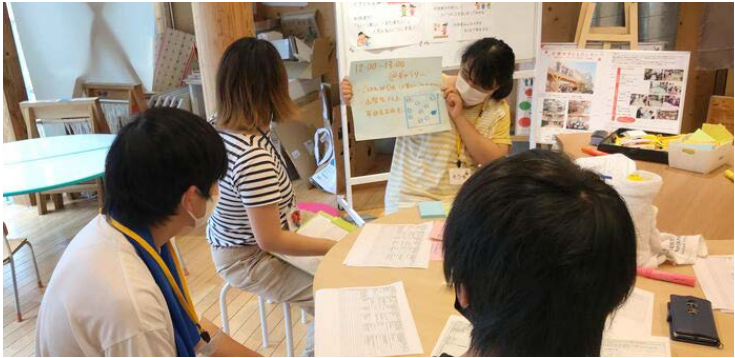
今年はコロナ禍ということもあり、残念ながら3月に予定していた防災をテーマにしたイベントは中止に。そんな中、自分たちにどんなことができるか考え、地域の人たちの声を聴くフィールドワークから活動をスタート。その後、フィールドワークの振り返りやメンバーでの意見交換を経て、地域の飲食店の商品を配達する『ハコブネ。』とコラボを目指す「ハコブネ。チーム」と、石巻のお店やスポットなどまちの魅力や震災のことを伝える「魅力発信チーム」に分かれ、活動を進めています。

いままでの活動：石巻市子どもセンターらいつ企画デザイン、立町大通り商店街マップ作成や震災を風化させないためのモニュメント制作、水産イベントの実施、石巻の歴史マップづくり、石巻の復興の様子と子どもたちの願う石巻の未来が描かれた「夢まっフラッグ」の制作、アニメ・マンガをテーマにしたまちなかイベント(まきコミ祭)の開催

まきトーーーク

5月9日(日) 参加者：6名(小6～大人)

～コロナ時代の石巻、びえん。ソシャディは保って、うちの心は密にしよう！～というテーマで、子どもたちが「石巻芸人」となり、まちで気になることや臨時休校中に思うこと、自分がやりたいことを考える機会としました。今回はオンラインで開催。参加者からは「久々にみんなの顔をみれて安心した」「休校後、家族とのケンカが増えた」「運動がしたい!」「もっといろんな人とおしゃべりしたい」などの声があり、休校中の子どもたちのリアルな声を聞くことができました。



子ども会議

＜2020年の子ども会議の議題＞
子ども会議の今年のルール・目標について／らいつの利用方法について(計3回)／運営会議の発表について／らいつの夏祭りの開催方法について／BIGVOICEについて／絵本の寄贈について／落とし物について／石巻市子どもの権利標語のコンテスト「らいつ賞」について／おもちゃの寄贈について

子ども企画

子ども企画では、子どもたちがいつでも自由に子どもセンターでやりたいことを提案できます。自分で企画書を書き、参加者を集めたり、広報したりしながら、実現させることのむずかしさ、そして企画が成功したときの達成感を味わうことができます。子どもたちから提案された企画は、遊びに来ている小学生・中学生・高校生各一人ずつの3人以上の子どもたちによって、やるかどうかの議論を行います。楽しそう、工夫したところがあるなどの視点で点数をつけ、合計点の8割以上を取ると、承認になります。小学生から高校生までの様々な世代の企画者による様々な企画が行われ、子どものやりたいと思ったことが実現できる場となっています。今年は、高校生の企画を見ていた小学生が自分で次の企画をするなど子ども企画の連鎖が見られました。また、子ども企画をきっかけに、継続的な場をつくりたいと「部活動」もスタート。日常的な関わりの中で、職員が子どもたちにもっと寄り添い「やってみたい」を実現できる場であり続けることを目指します。

らいつ部活動 らいつ内で行い、だれでも参加できる活動であれば、部活として活動できます。

- ・らいちゅーぶ YouTubeにてらいつや石巻について発信しています。
- ・語りぶ 中高生以上向けに、社会問題から身近な問題までいろいろなことをゆるく語っています。これまで「セクシュアリティ」「教育」「震災」などをテーマに開催。
- ・デュエ部 毎週日曜日に集まり、デュエルマスターズというカードゲームの対戦と初心者講座を開催しています。

子ども会議では、子どもセンターの利用方法に子どもたちの声を反映するため、小学4年生から高校生までのメンバーが月に1回集まり、様々な意見を出し合っています。
今年の活動では、新型コロナウイルスが流行している現状を踏まえてらいつの入館方法や飲食について話し合いを行いました。特に飲食については「お昼はらいつで食べたい」という声が多くあり、感染予防対策をしたうえでお昼ごはんをどうらいつで食べられるかのルールを考え、ランチタイムを設けました。また、毎年開催しているらいつの夏祭りについても「3日間にわけて開催する」「企画者はこまめに消毒する」「参加する人は名前を書いて参加」などの対策のもと開催を決定しました。さらに、利用者から声が出ていたらいつの落とし物を減らすため、啓発のためのポスター作成や動画を作ろうと活動しています。その他にも利用者からスポーツ室の使い方について困っているとの声がありましたが「らいつは自由に遊べる場所だから」と、ルールを決めず困っているときは声がけをしていくことになりました。今後も自分たちで課題を発見し、話し合っていけるよう活動を続けていきます。



提案者	内容	結果	実施日	参加人数
高校生	デュエマ大会	可決	1月26日	7
小学生	ポケカ トーナメント①	可決	2月2日	6
小学生	ポケカ トーナメント②	可決	2月15日	4
小学生	逃走中	可決	未実施	
小学生	お化け屋敷	可決	未実施	
小学生	プラ板づくり	可決	10月24日	5
小中学生	お泊り会	可決	未実施	
高校生	デュエマ大会	可決	12月6日	14

子ども 実行委員 企画イベント

らいつでは、子ども
たちが参加しやすい
子ども参加の仕組み
の1つとして、年に
数回、子ども実行委
員を募集して、子ど
もたちが主体となっ
てイベントを企画運
営しています。



夏祭り

今年は、川開き祭りも中止になる中、やれる方法を考えよう！と子ども会議で話し合った結果、開催を3日間に分け、予約制で店長が感染予防対策を考えながら実施することに。店長が集まり、ビンゴ大会やヨーヨー釣り、的あてに百本引き、ポケモンカード大会まで！「お祭りに来れてうれしい！」という声や、「来年もお店をやりたい！」という声があり、みんな大満足な様子でした。

実施日：8月17～19日 参加者：延べ194名

石巻ハロウィン祭り

元々は子どもまちづくりクラブが中心市街地活性化基本計画に向けて「商店街でハロウィンパーティを開催する」を提案実現したハロウィン祭り。今年はコロナ禍ということもあり、子どもたちと商店街の方で集まり、開催するか、開催するなら感染対策をどう行うかを話し合いました。その結果、事前申込制にして定員を設け、2日間に分けて人数を分散することで開催が決められました。メインイベントのお菓子集めや仮装コンテストの他、子どもたちが企画・進行をして行ったBINGO大会、ハロウィンメイク、肝試し、工作教室と盛りだくさんの2日間でした。

実施日：10月31日（土）、11月1日（日）

参加者：お菓子集め389名、仮装コンテスト31名、ハロウィンメイク9名、工作教室19名、BINGO大会88名、肝試し41名、フリースペース120名

協賛：アイトピア大町会、アイトピア銀座会、立町大通り商店街振興組合、中央一大通り会、橋通り商店街振興組合

協力：いしのまき元氣いちば、一般社団法人ISHINOMAKI2.0、株式会社まちづくりまんぼう、COMMON-SHIP橋通り



ゼロシックス

らいつの日006

らいつの開館を祝い、関わってくれている方々に感謝を伝える「らいつの日」。今年も有志の子どもたちが実行委員となり、「はじめて来た人にもらいつができたきっかけを楽しみながら理解してもらう」「らいつの外に出て交流する」などをねらいとし、遊びに来た子たちに楽しんでもらいたいという想いで実施しました。

Room3でのラジオ企画やらいつを飛び出し中瀬公園で遊ぶイベントなど新しい「らいつの日」となりました。

活動発表(子ども会議とまちづくりクラブ)/ワールドカフェ/未成年の主張/運動企画(中瀬)/乳幼児企画/らいつクイズ/高校生ライブ/ビンゴ大会/ラジオ/らいつ卒業生との交流会/お茶っこらいつ 参加者：139名 実施日2020年1月19日

子ども エンパワー 事業

子どもの様々な興味関心を引き出し子どもが地域や社会とつながることで、自分のもつ力や可能性に気づき、次の一步を踏み出すきっかけをつくります

今年の料理王は、新型コロナウイルスの影響で1月以降中止となりました。 1月25日 お正月！餅つき体験 8名



アートラボ

芸術を通じて、表現方法の多様性やものづくりの楽しさを感じることができる事業です。自分の気持ちを言葉ではうまく表現できない子どもたちにも、様々な方法で思いを伝えられることを知ってほしい、自分の可能性を広げてほしいと願って取り組みました。今年は石巻にある企業や団体とつながり、石巻の新しい魅力を知ってもらおうと開催しました。昨年度より実施してきたらいつの看板も完成させることができました。

2月 らいつの看板をつくろう(連続講座) 巻組 13名 | 7月 らいつの看板をつくろう(連続講座) 巻組 13名 | 8月 宝石せっけんづくり 子どもセンター職員 9名 | 9月 演劇ワークショップ 劇団「スイミーはまだ旅の途中」7名 | 10月 ダンボールであそぼう 今野梱包株式会社 9名 | 12月 羊の毛から糸をつむごう いとのまき吉田麻子さん 6名



Earth Teens

社会・人権・平和をテーマに、子どもたちの「知りたい」「やりたい」「考えたい」気持ちを育てる事業です。子どもたち自身が社会の課題を見つけ地域とつながれるようにと願って取り組んできました。今年ほらいつに身近な中瀬公園での水てっぽう大会や、日和山での季節の植物探し、SDG'sの目標の一つである海の問題を知るために船に乗るなど、楽しく学べるようなプログラムを行いました。

2月 フェアトレードチョコで生チョコをつくろう！ 認定NPO法人ACE 11名 | 2月 おいしいスイーツの裏側 児童労働とチョコレート 認定NPO法人ACE 5名 | 7月 水てっぽう大会 子どもセンター職員 20名 | 8月 夏は川であそぼう！ 石巻・川のビジターセンター 11名 | 10月 SDG'sってなに？ 海の中のをぞいてみよう Ishinomaki Save the Ocean Project (ISOP) 9名 | 11月 秋の植物をさがしに行こう！～缶バッチと写真たてづくり～ むかい米いきもの研究所 向井康夫さん 8名 | 12月 お正月飾りを作ろう フローリスト・クラウン 5名



青春力 -Youth Power-

中高生世代が様々なテーマを通じて地域や社会に関心を持ち、繋がることのできる事業です。中高生が参加しやすく、みんなで交流できる企画を開催し、多様な層がらいつに来るきっかけづくりを行いました。また、らいつを拠点に地域の大人と中高生がつながれる機会にもなりました。今年は、コロナ禍でまちなかのイベントが少なくなってしまったため、季節を感じる企画や屋外での企画を中心に活動しました。

1月 新年会 12名 | 5月 卒業進級パーティーオンライン 9名 | 8月 スケートボード体験 16名、らいつカフェ(臨床心理士のお話)3名、浴衣で花火19名 | 9月 ドラム体験 3名 | 10月 屋上映画観賞会 9名 | 10月 スケートボード体験 4名 | 11月 スポーツ大会 3名 | 12月 こたつカフェ 4名

子育て 支援事業

仲間や地域とつながり、いっしょに育ちあうことを大切に実施。子どもの権利を大切にしながら、子どもの育つ力を引き出すイベント、親子でホッと安心できる場づくりをしています。

親子ではぴ☆はぴ

年間参加者数 198名
年3回開催

0歳児とその保護者を対象にした6週連続講座。地域で活躍する様々な方を講師に招き、交替わりで子育てに関するテーマで講座を実施。月齢が近いということもあり、毎回活動後に残っておしゃべりをしながら遊ぶ姿も！最後にはみんなでグループLINEを作り、子育ての輪が広がっています。



ベビーマッサージ

年間参加者数 134名
毎月1回開催

はいはいまでの乳幼児親子対象。親子のスキンシップの方法や赤ちゃんの権利、赤ちゃんの社会参加の視点の大切さを学んだり、子どもの様子を聞いたり話したりするママの情報交換の場にもなっています。



親子でほかほか

年間参加者数 91名
隔月1回開催

助産師チームと「やさしい抱っこやおんぶの方法」「おんぶグッズの選び方」などお話ししながら実践を通して学ぶことができる「抱っこおんぶサロン」を開催しています。抱っこやおんぶには赤ちゃんの権利の視点がいっぱい。妊婦さんの参加も増えています。



パパ講座

年間参加者数 11名

今年は現役男性保育士をお招きし、身体を動かすだけでなく親子で製作もして、盛り沢山の1時間でした。パパも子どもも楽しそうにしており、それを見守るママたちも笑顔で、優しい時間が流れていました。パパのスキルアップにも、ママのリフレッシュにもなっています。



Mカフェ

年間参加者数 472名
毎週月曜開催

「乳幼児親子がホッと一息つける場所」をテーマに開催。子どもだけでなくお母さんたちのおしゃべりの場になっています。月1で石巻市図書館やファミリーサポートセンター、病後児室ミルクの看護師もお招きし、様々な交流の場にも。

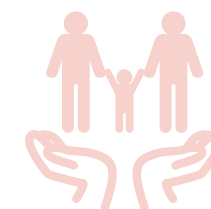


音楽であそぼう！

年間参加者数 156名
毎月2回開催

しっかり歩く1〜2歳児対象。音楽に合わせて歩いたり、時には動物に変身したり、楽器やボール等を使ったりと、親子で楽しく身体を動かします。最後にはお絵かきやシール貼りなどプチ製作の時間も。
(空きやキャンセルがあれば3歳以上も参加できます)

休日子育て相談



土曜日及び日曜日も子育てに関する相談を行っています。10時〜15時は「休日子育て相談員」がいますので子どもと過ごしながらかつたりと相談することができます。

移動 児童館 事業



市内に一館しかない児童館らいつには、遠くてなかなか行けないという声に
応えて、子どもセンターから離れた地域でNPOや、石巻市社会福祉協議会
の協力により遊び場を開催してきました。

今年は、コロナ禍により、子どもたちの遊びが奪われてしまっている中だか
らこそ、子どもたちが安心安全に遊べる環境をつくるとともに、遊び場を通
じて子どもたちの声を聴こうと取り組みました。

釜地区 2月11日 34名@釜小学校、2月25日 114名@釜小学校

蛇田地区 2月17日 38名@蛇田公民館

中瀬公園 8月11日 26名、8月12日 44名、12月20日 5名

研修事業



子ども一人ひとりが、今を生きる主体として大切にされ、自信と希望をもって
育つことのできる地域や社会をつくるために、多様な視点から学びました。

2月6日 子どもの声から始めよう！～相談支援とまちづくり～ 浜田進士氏 30名

4月23日 中高生合同施設研修会 世田谷区立希望丘青少年交流プラザ「アップス」文京区少年プラザ「b-lab」 14名

4月30日 災害時の子ども子育て支援を考えよう～新型コロナと子どもの権利・子ども参加～センター職員 15名

10月17日 中高生～若者世代と地域の関わりについて考えよう！ 竹久輝顕 9名

チャイルドファシリテーター研修 9月3日、9月19日 9名

らいつの子ども参加事業において、子どもたちの声を引き出しサポートするチャイルドファシリテーターを養成
する研修を今年から実施

子どもの 権利啓発



らいつは、子どもの権利を柱に運営しています。また、石巻市は、宮城県で
唯一子どもの権利に関する条例を制定しているまちです。そこで、らいつか
ら子どもの権利・子ども参加を発信して、もっと子どもや保護者に知っても
らいたいという思いから、11月20日「世界こどもの日」がある11月を「子ど
もの権利月間」として様々な活動に取り組んでいます。

【今年度実施した取り組み】

①子どもの権利に関するクイズなどを取り入れた館内オリエンテーション（らいつ探偵）

②子どもの権利に関する映像の上映

③子どもの権利条約など子どもの権利に関する展示

④小5～高校生がいしのまき子どもの権利フォーラム及び子どもの権利条約フォーラム2020に参加

企業・地域 との 連携事業



子どもたちが企業や地域の皆さんと顔の見える繋がりを持つことで、企業の
専門性を知り、多くの大人と関わる機会にしたい。企業や地域の皆さんに、
子どもたちの様子や子どもの権利について知って欲しい。そんな思いから、
様々なプログラムや活動をしています。今年は、らいつをより地域に開いて
いくため「オープン・ザ・らいつ」をモットーに新たな活動を始めました。

1月11日 ジャッキーのトートバッグづくり 株式会社バンダイナムコホールディングス 14組(31名)
| 1月11日 ポケモンプラモデルをつくろう！ 株式会社バンダイナムコホールディングス 32名 |
6月 野菜をらいつの屋上とみんなのお家で育てよう！ サントリーフラワーズ株式会社、サントリ
ーホールディングス株式会社 32名 | 8月13日 お化け屋敷 劇団「スイミーはまだ旅の途中」、ら
いつボランティア 22名 | 8月15日 ミニ四駆大会 mini 4×4 team IBO 44名 | 10月18日 ミニ四駆大
会 mini 4×4 team IBO 15名

お茶っこらいつ 6月から毎週水曜日15:00～17:00実施

「オープン・ザ・らいつ」の一環として、中庭を開放し、ゴザをしいて
机やおもちゃを外に出し、だれでも気軽にお茶っこできる場をつくりま
した。いつもの風景の中に少し非日常的な空間ともなり、子どもたちや
保護者にも好評で、普段はあまり交流する機会のない地域の方とも挨拶
したりお話ししたりできる機会になりました。また、ボランティアで若
者が関われる場としても機能していました。今後は、より積極的に地域
の方に声掛けをして、子どもたちと地域の方が日常的に関われる機会に
していきます。

ボランティア受け入れ

より地域に開くこと、若者の活躍の機会をつくることを目的に、今年か
ら日常的なボランティアの受け入れを開始しました。ボランティアに参加
する際には、事前に子どもの権利や遊びに関することなど、らいつが
大切にしていることを伝え、考えてもらうオリエンテーションを実施し
ています。これまでらいつを利用していた若者にとどまらず、教育現場
を志している学生、子どもや教育に関心のある大人など県内外から様々
な方が来てくれています。

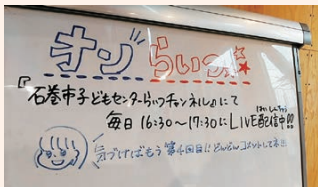
休館中の取り組み

新型コロナウイルス感染防止対策として、子どもセンターは3月5日～5月31日まで臨時休館となりました。学校も休みになる中で、子どもセンターとしてできることは何か話し合いながら、オンラインの活用やオフラインでのアプローチなど、3つの視点を大切にしながら、様々な取り組みを行いました。

オンらいいつ(YouTube生配信企画)

子どもたちと双方向でのコミュニケーションが取れる場をつくるために、YouTubeでの生配信を実施。視聴者のコメントにリアルタイムで反応しながら、テーマトークやゲーム対決などを行いました。

実施期間：4/14～5/31 毎日16:30～17:30配信 全43回
体制：スタッフ2人以上 ※アーカイブ化しているため、現在も視聴できます



SNSでの発信

SNS (twitter、Instagram) を活用し、休館中の職員の業務の様子や職員の趣味、気になっていることを毎日発信。インスタライブは計3回(毎週月曜10:30～11:00)実施。

もしもしらいいつ (電話・LINE相談)

相談やなにげないことを話す電話相談をPR。子どもに身近なLINEによる相談も実施し、気軽にコミュニケーションをとれるようにしました。

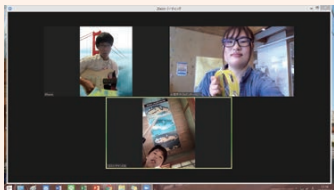
対応時間：毎日9:30～19:00
相談数：電話 計16名 LINE 計84名

- ①臨時休館中でも、子どもの居場所として子どもとつながる場をつくる
- ②緊急時でも子ども参加の場をつくる
- ③遊びや子どもの権利を発信する

どこでもらいいつ

(Zoomを使用して出入り自由のオンラインスペース)

Zoomを使用して、子ども同士がコミュニケーションをとれる場をつくりました。開催時間内は出入り自由で、注意事項を同意した子のみにURLを伝えて実施。Zoom内では、ご飯を一緒に食べたり、楽器でセッションしたりと、らいいつにいつものようにそれぞれが自由に過ごせる場となっていました。普段あまりらいいつを利用しない子ともつながれる機会となりました。



実施期間：5/13～5/31
毎日11:00～15:00
体制：スタッフ1～2人

テレアポ (アウトリーチ)

常連利用者に職員が電話をかけ、最近の過ごし方など近況を聴きました。webアンケートの案内をするなどの取り組みも実施。オンラインで連絡を取ることができない子どもともつながれる機会となりました。

実施期間：3/22～5/31 毎日17:00～19:00
実施件数：計109件



おさんぽらいつ (アウトリーチ)

近隣の公園やお店を回り、子どもたちや地域の様子を知るアウトリーチを実施。普段利用している子ども・保護者や、地域住民・関係者とのコミュニケーションの機会になった他、新たな子どもと出会い、職員が地域の状況を知る機会にもなりました。

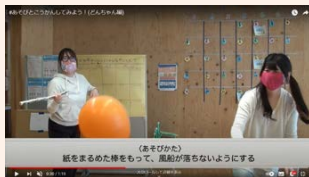
実施期間：3/21～3/28 毎日14:00～15:00
体制：スタッフ2人



地元新聞での“遊び”の発信

3月下旬より、地元新聞社の“石巻日日新聞”と相談し、家でもできる身近なものを使った遊びの紹介記事とコラムを連載。コラムでは保護者向けに、子どもへの声かけや遊びの重要性について伝えました。

連載頻度：週1回連載→5月から隔週で継続的に連載 3月～5月で計8回掲載。5月以降も月1回の頻度で連載中。



YouTubeで遊びの動画発信

ゴールデンウィーク中だけど、出かけられない子どもたちに対して、遊びの面白さや大切さを発信するため、各職員が「遊びと交換してみよう」をテーマに動画を作成し、出かけられないGWの楽しみとして、毎日動画を更新しました。

実施期間：5月3日～6日 計4本

web子どもアンケート調査→次ページ参照

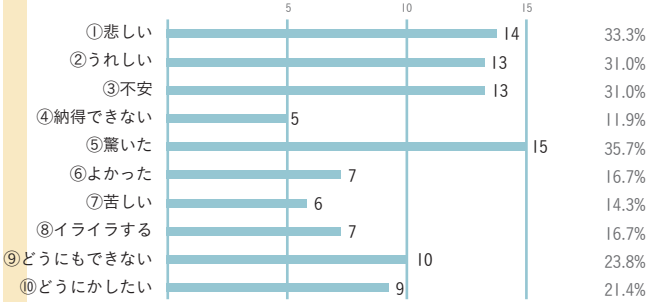
新型コロナウイルス感染拡大予防のための 休校に関する石巻子どもアンケート 調査

緊急時においても、「子どもの意見が尊重される権利」が大切であると考え、子どもたちの気持ちや意見を調査しようと、webでのアンケート調査を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学校が休校になったことで、石巻の子どもがどんなことを思っているのか、困っていること、悩みはなにかを調べ、ホームページなどで発信しました。 実施期間：3/16～3/31

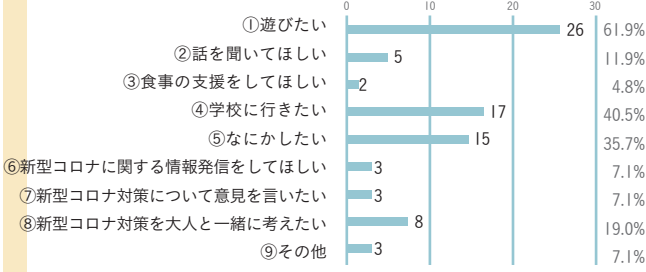
調査結果概要

- ①休校による自宅待機が続くことで、子どもたちの心身に影響が出ている
- ②子ども自身が新型コロナウイルス感染拡大予防に向けて、できることをしたい、どんなことができるか考えたいと思っている

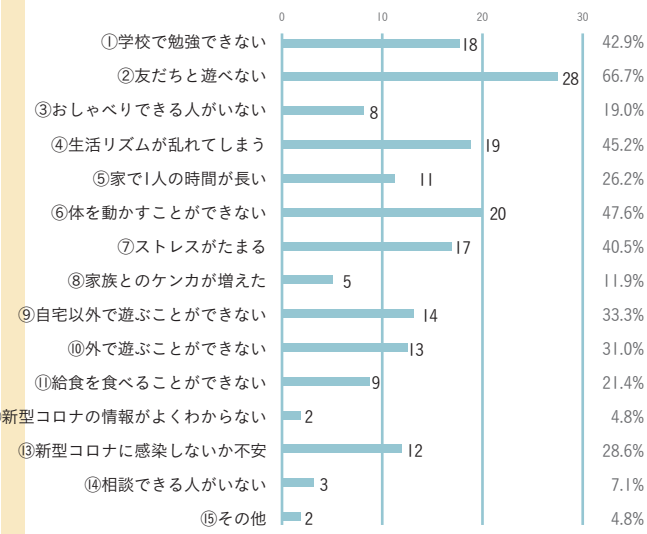
Q1 学校が休校になって、どんな気持ちですか？(複数回答可)



Q3 自分がしたいこと、大人や社会に伝えたいことはありますか？(複数回答可)



Q2 休校して、自宅で過ごすことで、困っていることや悩んでいることはありますか？(複数回答可)



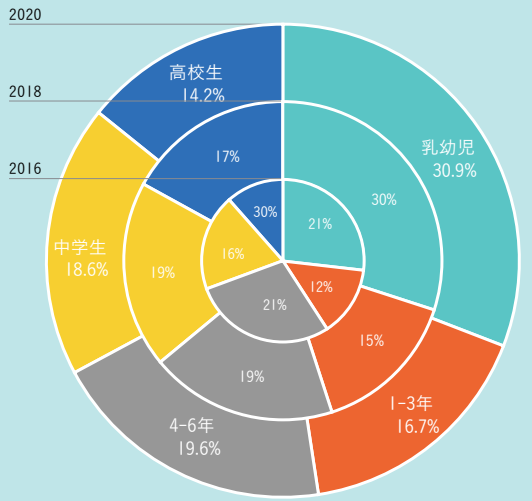
有効回答数：42件
男：23名／女：18名／未記入：1名
小学1～3年生：8名 19.0%
小学4～6年生：12名 28.6%
中学生：7名 16.7%
高校生：11名 26.2%
その他：2名 4.8%
未記入：2名 4.8%

データで見る子どもセンター

石巻市子どもセンターらいつは、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、3月5日から5月31日まで臨時休館となりました。6月1日から再開しましたが、新型コロナウイルス感染予防対策のため、利用人数の制限などもあり、例年2,000名を超える子どもたちが利用する夏休み(7,8月)も約半数程度に止まりました。その後、感染拡大が落ち着いた10,11月は利用者も一時増加傾向が見られたものの、本格化し始めた12月から減少傾向が見られます。

利用人数に変化は見られるものの、らいつの特徴である乳幼児から高校生までの世代が幅広く利用している点は、今年も変わらず、その傾向が見られます。平日・土日問わず、乳幼児と小中高生が一緒に遊んでいる様子がたくさん見られ、異年齢での遊びやコミュニケーションの場となっています。また、乳幼児親子同士での子どもの預け合いをする様子も見られ、保護者にとっても、子どもの育ちや悩みを共有する場となっています。一方、遊びに来ている子どもたちからは、コロナ禍におけるストレスや生活環境の変化について、相談や小さなつぶやきがあり、地域における子どもの居場所の必要性を感じた1年でした。

これからも子どもたちの声を聴き、その声を生かし、0歳から18歳までの子どもたちが幅広く利用できるような環境づくりに取り組みます。

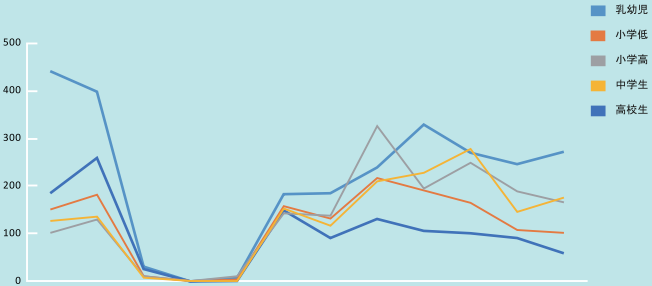


1-12月 一般来館者年齢別割合

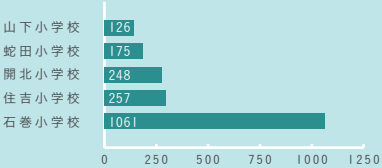
1-12月 延べ来館者数

	乳幼児	小学低	小学高	中学生	高校生	大人	合計
一般来館	2,601	1,410	1,649	1,569	1,199	2,624	11,052
定期開催事業	636	187	183	148	168	676	1,998
行事	178	275	221	49	33	357	1,113
子ども企画	137	15	9	0	6	190	357
団体利用	0	103	1	0	1	93	198
見学	1	11	6	4	5	0	27
総合計	3,553	2,001	2,069	1,770	1,412	3,940	14,745
2019年	7,577	2,957	2,993	3,298	2,336	8,148	27,309

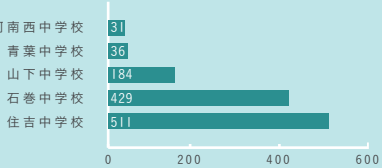
1-12月 一般来館者年齢別推移



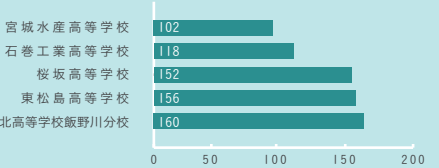
小学校別年間利用者数(上位5校)



中学校別年間利用者数(上位5校)



高等学校別年間利用者数(上位5校)



※2020年は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、昨年までと入館対応・集計方法が異なり、延べ人数での記載となっています。

利用者の声

らいつはいろいろなものがあって、しょくいんさんもやさしいから、らいつにきたときはいつもたのしいです。

子どもの声に対応して、Wi-Fiをとばす日をつくっている。

子どもたちが好きなことができています。子どもたちの声がイベントになったり、新しいルールになったりしている。

何年たってもらいつがあってほしい。大人になっても、あったら子どものころの思い出がよみがえるかも知れないから。らいつは、何年たってもずっとこの石巻にあったら、良いな。

走ってもさわいでもおこられないし、いろいろな人とあそべるし、いろいろなものであそべる。意見をだしたり「こうしてほしい」っていうとかなえてくれる。

子どもがのびのびとしている事がわかる。子どもとだけ向き合う事ができる（家事などなしに…）。

しょくいんの人はいつもみんなにやさしいし、ともだちがわるいことをしたらちゃんとおこってくれるから、らいつにいてとってもうれしいです。

子ども主体で活動できる貴重な場所です。いつもあたたかい見守りありがとうございます！

素敵な職員さんがたくさんいて、とても良い児童館だと思います。息子があかちゃんの頃から利用していますが、石巻で子育てできて幸せだと思います。



指定管理者「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」 2018年4月から運営

「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」は、「NPO法人ベビースマイル石巻」と「NPO法人子どもにやさしいまちづくり」の2団体で構成されています。指定管理者選定のプレゼンの時、子ども委員からの「子どもの最善の利益をどう考えますか？」「らいつの構想段階から、子どもたちとつながってきた地域や企業との絆をしっかり引き継いでほしい」「スタッフを変えないでほしい」という声に回答しながら、単なる施設運営ではなく、子どもたちの大切な居場所を守る覚悟が必要だと改めて感じました。子どもの権利を柱に「子ども参加」で、子どもたちとともに運営しています。

さいごに

子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。子ども参加とは、子どもたちの声をよく聴き、その声を運営や事業に活かしていくことです。子どもセンターではすべての事業に、子どもたちが意見を言う機会があり、その意見は事業に活かされています。

今年は新型コロナウイルス感染予防対策により運営にも影響がありました。一番は、突然子どもたちに会えなくなってしまったこと。こんな時だからこそ、どうやったら声を聞けるか。待っているだけではだめなことはすぐに感じました。子どもに届くように、わかりやすいように、安心して使いやすいように、子どもを取り巻く環境に耳を澄まして目線を子どもたちにあわせて働きかけていくことの大切さや居場所について改めて考えました。

子ども参加を実現することは、じっくり子どもと向き合う手間と根気、そして大人の理解が必要です。さらに、子ども自身にも、自分の思いを伝える力、やりたいことを実現する力が必要です。それらの力は遊びや他者との関わり、話し合い、さまざまな体験などをとおして子ども自身が獲得していく力です。子どもセンターがこれからも子どもによる子どものための施設でありつづけるために、子どもの遊びの重要性を理解し、子どもが遊びを通して育つ場であるとともに、子どもの主体性を大切に、子どもの社会参画を実現する児童館として、また、世界に子どもたちの声を発信する拠点として、地域のみなさんのご理解を得ながら、ともに邁進したいと思います。

東日本大震災から10年。感謝を込めて。





石巻市子どもセンター らいつ

〒986-0824 石巻市立町1丁目6番1号

TEL:0225-23-1080 / FAX:0225-23-1081

開館時間 9:30～19:00

休館日 年末年始、祝日、第1・3木曜日

